

## II. 実践研究の報告

### 9. 橘保育園（宮崎県 宮崎市）

#### 1. 研究テーマ

延長保育・一時保育の研究

#### 2. 法人名

社会福祉法人光輪会

#### 3. 研究代表者

主任保育士・清水亜紀子

#### 4. 保育園の所在地

宮崎県宮崎市橘通東1丁目7番18号

#### 5. 定員数・入所児童数

定員 120 名・入所児童 151 名（平成 16 年 12 月 1 日現在）

#### 6. 保育園の沿革（園の紹介）

橘保育園は宮崎市の中心部に位置し、周辺には県庁や市役所をはじめ官公庁が所在し、また各種企業を取り囲むオフィス街の一角を占めています。一方、メインストリート橘通りの商店街、大淀川河畔のホテル街も近在するなど、文字通り宮崎市の政治・経済・商業の中心地を背景としています。このような立地環境のため、自宅というより職場に近いということで当園を利用する保護者が多いです。

延長保育や休日保育など、当園が先駆的に取り組んだ保育事業も、このような環境から要請されたともいえます。

橘保育園は、戦後の復興期に母親の就労増加のため家庭保育に欠ける幼児を保育せんと、宗教法人安楽寺の社会奉仕活動として宮崎県知事の認可を得て昭和 28 年 4 月に創設されました。昭和 46 年 11 月、公の施設としての役割を十分に果たしながら多様化する保育ニーズにも的確に対応した民間保育園としての独自性をも発揮すべく、厚生大臣の認可を得て社会福祉法人立保育園として新たにスタートしました。平成 8 年 3 月に園舎を改築して（1 階・2 階が保育園、3 階がデイサービスセンター）、運営事業に老人デイサービス事業を新たに加えたのを機に、法人の名称を「光輪会」と改めました。今や、乳幼児から高齢者までが生活する場、また地域のさまざまな人々が

交流し合う場となりました。ちょうど光のように、明るさと温かさとが通い合う場、そして利用者もスタッフも互いが共に支え支えられ、輪になって生きることの尊さを実感できる場、そんな施設づくりをめざしスタッフ一丸となって努力しています。

#### 7. 延長保育・一時保育を始めた動機等

当園の延長保育は昭和 57 年 7 月 1 日より始まりました。昭和 55 年頃からいわ

ゆる「ベビーホテル問題」が社会問題化し、しばしば新聞・テレビでも報道されました。また国会でも取り上げられました。様々な研修の機会を通じて、特に宮崎市・よいこのもり第2保育園園長（当時権現乳児保育所所長）の小笠原文孝先生との勉強会や現千葉県知事の堂本暁子氏（当時TBSテレビ所属）のテレビ・雑誌レポートなどを通して、「ベビーホテル問題」はベビーホテルだけの問題ではなく、そういう劣悪で非人間的かつ反児童福祉的な施設の存在を許してしまっている当時の保育制度の問題でもあり、また同時に保育制度の下に設置運営されている認可保育所の大きな問題・課題の一つでもあることに気づかされたのです。

初めて「社会福祉施設としての保育所はどうあらねばならないか？」が当園にとって問いとなり、職員会で時々「ベビーホテル問題」が話題となったり、保育ニーズということが意識されるようになりました。

昭和56年5月より、家庭保育改善のため、また二重保育解消のため、それまで昼食後午後1時までとしていた土曜日の保育を、平日同様の保育時間とすることとしました。また、同年12月より、いわゆるお役所の御用納めの28日をもって終了していた保育を31日まで、つまり29日から31日までの年末保育を実施することにより、年末こそ書き入れどきで忙しい保護者をサポートすることになりました。そして、昭和57年7月1日より延長保育、平成3年度より小学部保育（学童保育）、平成8年度より休日保育、そして平成11年度より一時保育を開始して今日に至っています。

#### 研究の目的・概要

本研究の目的は、延長保育および一時保育の保育内容の向上をめざすことにあります。『保育所保育指針』には、子ども一人一人が「現在を最もよく生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うこと」が保育所保育の目標として示されていますが、この目標は、当然、延長保育や一時保育においても同様でなければなりません。本研究では、

- (i) 子どもが園でどう過ごすか？言い換えれば、保育者が子どもにどう関わるか？
- (ii) 家庭の保育ニーズをどう受け止め、保護者をどのようにサポートするか？
- (iii) 園の職員が延長保育や一時保育に前向きに取り組むための諸条件をどう整えるか？

の三つの課題にアプローチすることにより、保育所保育のあるべき姿が延長保育や一時保育の場面などでこそ象徴的に表われてくることが明らかになることと思います。つまり、(i) 子どもの育ち (ii) 保護者のニーズ (iii) 保育者の実践が、まさに三位一体的にバランスよく展開されるところに保育所保育の意義があることが明らかになると思います。

#### 研究スタッフ

主任保育士・清水亜紀子ほか橘保育園スタッフ

## 研究の方法・研究会議の状況

- ・ 8月24日 研究のすすめ方の検討、役割分担について
- ・ 9月27日 延長保育および一時保育のアンケート実施について
- ・ 10月6日 延長保育および一時保育の担当スタッフ「子育てに関するアンケート」
- ・ 10月25日 「子育てに関するアンケート」の集計
- ・ 11月19日 延長保育および一時保育の事例研究
- ・ 12月11日 研究のまとめと今後の課題
- ・ 12月15日 報告書の作成

## ア. 研究の実施状況

### 【延長保育】

#### (i) 特別延長保育について

当園では、「延長保育」を午後6時～10時まで行っていますが、一口に延長保育といっても、利用時間および利用形態とも保護者によって、また日によって様々です。特に夕食をとる、とらないは保育態勢にも大きな影響を与えます。そこで、夕食をとる園児を対象とした延長保育を「特別延長保育」と呼んでいます。ほとんどの園児が入浴もします。食事および入浴は園舎2階の梅組（※3歳児ルームで入浴設備も整えています。）に移動して行っています。以下、特別延長保育の標準的な様子です。

18:00 [夕食] 子ども達がそれぞれ椅子にすわると最年長児が、ご飯、おかず、お箸などを配ってくれます。小さいお友達にエプロンをかけてあげたり椅子を出して座らせてくれたりする姿が見られます。まさに大家族の雰囲気です。

保育士も一緒に食事をしながら、子ども達からは日中遊んだことやお友達のこと、家庭のことなど、いろんな話題が飛び交います。

18:40 [入浴] 浴槽いっぱいのお湯、お湯に浮かぶおもちゃ……。一人一人丁寧に体を洗ってあげながらいろんな会話を楽しむようにしています。この時間になると、特に演出の必要もないほど、家庭にいるようなゆったりした気分になります。

19:00 [遊び] 園舎1階の桃組（※2歳児ルームで、食事や入浴をしない子ども達が18:00から過ごします。）に合流します。年齢や人数に応じて、いろんな玩具が用意されています。この時間帯は、積み木やブロック類が一番人気です。20:00を過ぎると人数が減り、お絵かき、色塗り、トランプ、折り紙、ままごと、お人形ごっこ、粘土、パズル、写し絵、絵本、かるたなど、お友だちと、また保育士と、二人組～三人組になって遊びます。保育士の膝に座って本を読んでもらうことをねだる子どももいます。もちろん、眠くなってお布団でゴロゴロする子どももいます。

現在、毎日利用の子どもが6人、週2～3回利用の子、1ヶ月に4～5回利用の子など利用パターンはさまざまです。保育士は、次々にお迎えが来てお友達が帰っていくことで寂しい気持ちにならないように、子ども一人一人の様子に気を配り、温かく和やかな雰囲気づくりを心がけています。『いつも側にいるよ』という気持ちで、ゆったり接しています。子ども達のなかには、昼間見せる顔とは違った顔を見せてくれることもあります。緊張感なしに積極的に遊ぶ姿や、小さいお友だちの前でリーダーシップを発揮する姿や、延長保育担当者に甘える姿も見られます。年齢の小さい子と大きい子とが一緒に過ごすなかで、担当保育士も交えてきょうだい・家族のような雰囲気が醸し出され、相互に思いやりや憧れの気持ちが持てるようになっていきます。

担任との連携、昼間の情報収集を怠らないように心がけ、延長保育で見た子どもの姿や感じたことを翌日担任にきちんと伝えるなど、職員間の連携を心がけています。

#### (ii) 4歳女児Mの事例～母親の育児不安からの解放～

Mと母親の2人暮らし。Mは、3歳で当園に入園してくる1年前に母による虐待を受け、一時母子分離のため乳児院に入所していたという事情を抱えていました。

母は抗うつ剤や精神安定剤などの薬を服用されていました。体調不良も重なって、家庭内で育児に対して不安や自信のなさが日々募っていかれる様子でした。極度の育児不安を訴えられたことを機に、園から申し入れて、児童相談所の担当者も交えて母親と話し合いを持ちました。「栄養のあるものを食べさせなくては・・・」との気持ちが強く、それがかなりの精神的負担となっているうえに、自分が支度した食事をMが食べなかったり残したりすると虐待に及んでしまうということでした。自分が幼少期に楽しい食卓の思い出がなかったこと、また「ちゃんと食べさせなきゃ・・・」と考えるだけで頭が混乱してしまうとも話されました。

母親のそんな話を聞いていて、しばらく延長保育を利用して夕食と入浴のサービスを毎日受けられることを提案しました。母親の精神的負担の軽減を図ることに当面力を入れてみましょうということになりました。お迎え時には、Mの様子を丁寧に伝えることを延長保育の担当保育士と申し合わせました。その日の夕食の内容、摂取状況などを伝え、母親への食事指導にも力を注ぎました。

Mは家庭のそういった複雑な状況を感じさせない、くったくのない人懐っこい子で、昼間の保育中に友達関係などで特に問題になることはありません。延長保育の時間を特に好み、小さいお友達のお世話をすすんでしようとする姿がみられます。昼間クラス担任に見せることのあまりない甘える姿もみら

れます。延長保育時には、母親の病気の様子を心配する言葉を言ったり、夜に母親がヒステリックになった様子が伺えるような話もしたりします。

特別延長保育の担当保育士が3日ほど休んだ明けの日、夕食時、「私、大きくなったら橘保育園の先生になるわ。そして、先生が用事があって休んだ時に、延長保育で小さいお友だちにご飯を食べさせてあげる！」とこっそり告げたそうです。Mにとって、延長保育の、特に夕食の時間が、いかに楽しみで安らぎのひとつであるかが分かるように思います。

母親も園に対して絶大な信頼を寄せてくださるようになり、「お母さんのご飯より、保育園のほうがおいしい！というんですよ」などと笑って言えるような精神的余裕も持てるようになってこられました。

#### (iii) 担任も母親も問題児にしていたかもしれない5歳男児Kの事例

父は営業マン、母は夜勤ありの看護師で、1歳の入園時から延長保育を利用されています。Kは一人っ子で、体格もよく、元気いっぱいの子どもです。実は4歳前後からクラス担任が手を焼くようになっていました。なかなか落ち着いて人の話が聞けない、同じクラスのお友達にはよく手がでる、遊びが長続きしないなどの保育上の課題がみられるようになったのです。母親もKの行動パターンが理解できないことや父親との子ども像の違いから多少育児不安に陥る面があり、仕事が忙しくてKに十分に構ってあげられない自分を責める発言を担任や園長にも伝えられるようになりました。

Kは延長保育の時間帯を好んでいるようでした。5歳になった頃から、小さいお友達の面倒をよく見てくれるようになりました。よく様子を見てみると、根気強くブロック遊びにつきあったり、絵本を読んであげたりしています。

机を出したり着替えを手伝ってあげたりもしています。お迎えの時に父や母にKの様子を話す時間を大事にし、同時に母には他児の様子も含めてよく話しをするように心がけました。その積み重ねの結果、母はかなりKの行動に寛大な態度で接するようになってこられました。

発表会のリハーサルの日のことです。延長保育のメンバーズの小さいお友達Hが踊る姿を目を細めて見て、「先生、Hちゃん上手にできるね。泣いてないね。」と嬉しそうな表情で延長保育の担当保育士に伝えていました。自分の妹や弟を思うような気持ちで見ていたKの心情が伝わってきました。一人っ子のKが延長保育を利用していなかったら、こんな心情が育っていただろうかと思います。以来、クラス担任もKに寄せる眼差しが変わってきました。母親もずいぶん落ち着いてきました。

#### (iv) 延長保育で心を開いた5歳女児Hの事例

人見知りが激しく、日中は友達がはしゃぐ輪の中に入り込めないでいることが多いH。発表会の劇あそびの役決めで、Hはナレーター役を自ら手を挙

げて志願したのです。保育室内での読み合わせは順調にすすみました。家庭でも台本を持って練習していますと母親からも報告があり、Hの成長ぶりを喜んでいました。ところが、いざ舞台に上がっての読み合わせになったとき、Hは舞台に上がることを拒みました。クラス担任をはじめ、いろんな保育士があの手この手でHに声をかけますが、Hの表情は硬くなるばかりです。

Hは、父が市外への通勤、母も残業が多く、週に2～3日は延長保育を利用していました。発表会の当日が間近に迫ってきて緊張感が高まってきたであろうHの心情を思っ、母と主任とが電話で相談をしました。「ナレーターの役をやるにせよ、または代わってもらうにせよ、いずれにしてもHの気持ちに寄り添いたい」という事を伝えました。その電話の2日後、Hは、延長保育の入浴の時間に心を開いてくれました。延長保育担当の保育士が、Hの髪を洗ってやりながら、自分の小さかったころの話をしたそうです。自分の小さい頃も発表会というのがあり、係になった自分はドキドキしてとても緊張して、心配だったことを伝えた時、Hは「先生も？」ととても嬉しそうな顔をしたといいます。そして、一人では恥ずかしいので、仲良しのMちゃんと一緒に舞台に出てセリフを言いたいと話してくれました。その事はすぐに、担任に報告され、その後の練習、本番とお友達と手をつないで舞台にあがってくれました。当日は、舞台にたてたことを両親も心から喜んでくれて、Hも終わってからホッとした表情を見せてくれていました。

[一時保育]

(i) 5歳の障害女児Yの事例

Yはダウン症という障害を抱えています。親御さんは本児が健常児と一緒に過ごす中でたくさん刺激を受けて成長して欲しいと願われ、一時保育を希望されました。母親は入所にあたり、あちこちの保育園を見学されたようです。当園に決められた理由として、(1)子どもたちが見学の日にYや母親に人懐こく声をかけたことが嬉しかったこと(2)職員の笑顔(3)Yが園長とすぐ仲良くなったこと(4)楽しそうな行事がたくさんあることなどをあげられました。母親の願いに可能な限り何とか応えたいとスタッフ間で話し合いを重ねました。その結果、(1)以前にダウン症児の受け入れの経験があること(2)受け入れクラスに別に障害児がいて保育士を1名加配しているので、職員態勢に比較的余裕がある、(3)特に母親との連携に心配な点がない、などから受け入れることにしました。3歳の頃でした。

当初、言葉も出なく、遊びに集中しないYは部屋を飛び出したり、気に入らないとかんしゃくを起こしたりすることもありましたが、クラスのお友だちに温かく受け入れられながらすぐに園生活に慣れてくれました。毎日当園しないYが活動に戸惑わないように、子ども達の中に自然とY係ができてい

ました。トイレの付き添いや着脱のサポートなどは、すべて保育士より子ども達の方が上手なほどでした。

次第にYは言葉を習得し、運動会や発表会などの行事にも笑顔で参加し、めざましい成長ぶりを見せてくれました。その度に、クラスのお友だちは我が事のように喜んでくれました。定型の一時保育の利用で、友達との関わりが深まり、情緒面での育ちが見られました。またクラスメートの中で相乗効果があがりました。互いに思いやりの心、相手の気持ちを考える機会に幾度も出会ったと思います。5歳の誕生日に母親は連絡帳に『今日はYの誕生日です。5年前の今日婦人科の先生に「5歳まで生きられるか分かりません」と言われた言葉が未だに残っています。でも今日も元気に園に行きました。本当に嬉しく思います。』と綴られていました。

お迎えの時には、事務室を必ずのぞき「さようなら～」と腹から声を出して園長に挨拶して帰宅するYです。『自分のことを見て!』『私はこんな気持ちよ!』と体全体で表現し、自分の居場所をしっかりと与えられ知っているYの姿を見ていると、ほんとうに大切な子育て支援をさせていただいていると思わずにられません。

#### (ii) 母親がスポーツの試合があるため利用された2歳男児Hの事例

登園するなりHは嫌がらずスムーズに保育者に抱っこされ保育室に入りました。母親が荷物を置いて出ようとする、本児も察したのか泣き始め、「おかあさん、いく～」と保育士に思いを伝えようとししばらく泣きつづけました。お気に入りのぬいぐるみを持ってきていたので、それで遊んだりしましたがなかなか涙をこらえることができず、おんぶをするなどHが落ち着くよう努めました。おんぶをすると、泣きやんで穏やかな表情を見せてそのまま眠り、1時間ほどで目を覚ましました。利用日はちょうど弁当の日でしたので、お弁当の中身の話をしながら食事をし、はじめはなかなか食べようとしなかったのですが、連絡帳に書いてあった昨日のみかん狩りの話をすると、「みかんをとったよー!」「ママとお兄ちゃんといったよー!」「またいまからいかないと」など、みかん狩りの話に夢中のHでした。話しに夢中になりながらよく食べてくれました。興味関心事を引き出すことの大切さを思いました。Hの笑顔がたくさん見られ、担当保育士もホッとした場面でした。おやつ時間になると、他児の保護者が迎えに来て、少し寂しそうな表情を見せていました。涙をこらえきれず「おかあさんにいかないと」と話していました。その時ちょうどお母さんがお迎えにこられ、母親は涙をこらえんばかりに、本児を抱きかかえました。「ごめんねー」と語りかける母親。涙をいっばいためながらも、笑顔のHにこちらとしても、嬉しく思う瞬間でした。担当の保育士が一日の様子を細かく伝えました。母親はこの日の思いを、

一時保育のアンケートに次のように書かれています。「初めての一時保育でしたが、とても満足しました。安心して預けられました。また連絡帳で園での様子がよくわかり、また利用したいと思っています。おやつまで出たと聞いて、うちにいるより、おいしいもの食べたんだなあーって思っちゃいました」。

#### イ. 保護者・地域社会等の反応・評価

(i) 昭和57年に延長保育を開始したとき利用されていた保護者へのインタビュー1. 「19:00までの延長保育開始の知らせが園長からあった時の気持ちは？」

・子ども達を見ながら夕方の仕事をしていて大変でしたが、いざ延長保育で預けたとき、子どもが寂しい思いをしないか、相当気になりました。

・別の認可保育園に預けていた頃、お迎えが少しでも遅くなると子どもに時計を読ませていたらしく、子どもが「17時半はこの長い針と短い針だよ」と言っていました。また、「おかあさんお迎えこないね」と子どもに保育士が話しかけていました。そんな思い出に比べると、この機会はありがたく感謝の気持ちでいっぱいでした。

・自分の仕事の都合なのに、子どもを両親に預け、それも心苦しく感じながら夕方の仕事をしていたので、大変ありがたかったです。

##### 2. 「印象に残っているワンシーンは？」

・お迎えに行ったときに暗い中で待っているのかと思ったら、園庭の電気がついていて、先生たちが温かく迎えてくれたことです。

・妹は、普段は姉がいるため、家では「おねえちゃん」になる事はありませんでした。でも、延長保育ではおやつのお世話など小さい子のお世話をすることがあり、喜んで延長保育の時間を過ごしていました。

##### 3. 「周囲の人（両親、友達）から何か言われたり、気がかりだったことがありますか？」

・いとこ同士で同年齢の子が多かったのです。自営なので仕方はないが、「あんなのとこの子が一番かわいそう」とよく言われました。

##### 4. 「いつの時点でその悩みや迷いは解消されましたか？」

・子ども達が夜までいることを喜んでいたとき。特別なことと思ってくれていたようです。おやつが出ることや、ほかの子と違うことを体験できると喜んでいました。

・無認可保育所の実態を知っていたので、温かな様子、一人一人を大切にしている様子が伝わり、初日で解消されました。

##### 5. 「うれしかったことは？」

・熱があると電話が入って、慌てて迎えに行くと毛布をくるんでわが子を



抱いて待ってくださっていたこと。その姿はとても美しく今でも思い出します。そんな子育てをしていきたいと思いました。

#### 6. 「情けなかったことは？」

・情けない思いをしたことはありませんでした。

(ii) 平成14年4月より延長保育終了時刻を午後10時までとしたときの保護者の反応

2歳男児Tの父母は二人ともデパート勤務。毎日延長保育を利用されていて、迎え時刻は午後7時から8時の間。仕事が遅くなる時は母方の祖父母が迎え。延長保育の終了時刻が午後10時になりますという文書を配布した翌日の夕方、母が事務室の園長のところに近寄ってこられ、「園長先生、10時までの延長保育開始のお知らせありがとうございます。私達が遅くなる時は、現在祖父母が見てくれていますが、私の母も年をとってきて、Tはともかく、もう小さい子の面倒は見られないと言われ、二人目の出産をとっても悩んでいたんです。保育園で10時まで預かっていただけるのなら、私たちの仕事の都合もつきます。安心して二人目のことを考えられます。ありがとうございます。」と、深々と頭を下げ、喜んでくださいました。

#### ウ. 職員の体制・協力

##### [延長保育]

(i) 利用児が安心して落ち着いて過ごせるようにするため、一定の保育士が延長保育の時間を担当することが望ましいです。そのことで昼間の日常保育の生活も安定してくるのだと思います。そこで、毎日のように利用している子ども達は、担当保育士が休みの場合、(特に年齢が低いお子様は) いつもいる保育士がいないことで不安がることも予想されるので、利用児が親しみを感じている保育士が必ず勤務するようスタッフの態勢も配慮しています。

(ii) 延長保育に限らず、一人一人の園児を保育スタッフ全員で保育するという姿勢を最も大切にしています。このことをあらゆる機会に確認し合っています。

(iii) クラス担当保育士は一人一人の子どもの特徴(好きな遊び、興味・関心事、お友だちとの関わり、食事、病歴、体質的特徴など)をカリキュラム検討会やケース会議、保育スタッフ会議などの機会を通じて各保育士間に共通理解を図っています。

(iv) 特に特別延長保育は、園児の食事や入浴などの利用内容、除去食、当日の体調など、配慮すべき事項についてクラス担当と延長保育担当の保育士が打ち合わせます。

- (v) 初めて利用する子どもや人見知りをする子どもに対しては、クラス担当保育士が延長保育の担当ができるよう、勤務ローテーションも柔軟に対応できるようにしています。
- (vi) 戸外が暗くなるため、寂しい、怖い・・・という思いを決してさせないように、楽しく、親しみのある音楽を流したり、少人数だからこそできる遊び（例：トランプ・パズルなど）、利用児がしたい遊び・興味をもっている遊びを行ないます。和やかな楽しい雰囲気作りを心がけています。
- (vii) 保護者が安心して預けてくださるよう会話を大事にして信頼関係を築けるよう努めています。日中のことでの担任からの伝言、延長保育の様子（夕食、入浴、遊び）の様子をお迎え時には丁寧にお話しします。保護者が一日の仕事の愚痴をぼろっとこぼされたり、育児の相談などをされることもあります。保護者の方にとっても、迎えにきた瞬間ホッとできるような雰囲気を心がけています。

#### [一時保育]

- (i) 申し込みを受け付けてから、保護者に利用児の家庭での様子や現在の発達段階などを伺う『面接』をした保育士が利用初日の朝の受け入れを行なうようにしています。
- (ii) できるだけ固定の保育士が担当し通常保育の同年齢クラスの子とも達と一体的に保育を行い、お迎えの際には今日あった出来事を話し、短時間の保育であっても保護者に安心していただけるように、良好なコミュニケーションを心がけています。
- (iii) 不定期に利用される方については、利用児が園に馴染むのに時間がかかることもしばしばです。そのような時には必要に応じて（障害児を受け入れることもあるので）保育士を加配したり、活動によっては年齢と関係なく利用児にあった過ごし方のできるクラスで過ごすなどの配慮を心がけています。利用期間中に行事などが重なると、利用児にとって園への期待感や友達との交流が広がり、スムーズに園生活に馴染むことが出来るようです。一時保育も通常保育のスタッフ態勢と同様、利用児の安らげる環境構成はもちろんのこと、一緒にいて（利用児にとって）居心地の良い保育士が側にいてあげられるような態勢を整えるようにしています。

#### エ. 担当職員（保育士等）の意見

##### [延長保育]

- (i) “お店屋さんごっこ”があった日、夕方出勤の延長保育担当保育士のために、「このお花はT先生、この飴はY先生の」と買っておいでくれ

たメンバーズの子がいました。お母さんやお父さんへのお土産と同様に考えてくれていることを嬉しく感じました。

(ii) 3歳のK君は、お風呂であひるのおもちゃを浮かべて、「先生、このあひるまで家族みたいね。僕たちとおんなじだね。これがT先生で、これがY先生で、これがMちゃん、これがぼく・・・」

(iii) お迎え時玄関のベルと同時に防犯テレビ画面に写る人物をパッと確認する姿は、楽しい時間といっても、親を待っている心情が読み取れます。自分のお迎えを確認した時の喜びの表情はなんともいえません。最近では、子どもが保育室内に隠れて、お母さんに探してもらうのを喜ぶ姿もみられます。

(iv) メンバーズの子ども同士の間では、日中でも仲間意識があるのでしょうか、名前を呼んで手を振ったり、そばに来て声を掛け合う様子が見られます。また、保護者同士の間でも、会社のことを話されたり、子どもさんのこと、家庭のことなどお話をされて帰られます。たまには、会社で上司におこられたことを話していただき、「先生に話してすっきりした」と帰られることもあります。この場で、子ども達が、楽しそうに遊び喜んでいる姿を目にした時保護者の方も胸をなでおろしホッとされる空間が味わえるのかもしれないと思いました。このように、保護者との信頼関係を築きながら一人一人を大事にしています。子ども達の口から「延長保育は楽しいよ」と耳に聞く言葉がなにより嬉しいです。

(v) 「お母さん、残業してよ。」「私も延長保育に残りたい!」「延長保育のごはんを私も食べたい!」などと子ども達が家庭で話しをするようで、延長保育は“楽しいもの!”ということが我が園では定着していて、一度も延長保育を経験したことのない子どもにせがまれて、保護者が園長に「体験延長保育（食事とお風呂）を」と申し込むこともあるほどです。

オ. 保護者アンケート（子育てに関するアンケート）の集計と分析・考察

[子育てについて]

(i) 子どもを保育園に預けることによって、また子育ての経験が長くなるにつれ、親御さんが子育てに客観的な視点を持たれるようになっていくのがよく分かります。子どもの育ちを喜び、子どもといっしょに成長したいという思いになっていかれています。

(ii) 子育てしていて何らかのサポート態勢が必要だということが分かります。まずは、夫婦間での協力、そして祖父母の支援など、「ある・

ない」で子育ての負担や不安がずいぶん左右されます。

(iii) 子育てに悩みはつきものです。問題は悩んだときの相談相手がいるかどうか、また、相談相手をどうやってみつけるかということのようです。

(iv) 子育ての応援団として、また良き相談相手として、保育園への期待も大きいことがあらためて知らされました。

#### [延長保育]

親御さんからみて、延長保育の問題は3点に絞ることができると思います。

- 1.子どもが寂しく過ごしていないか？
- 2.保育者や園が大きな負担を負っているのではないか？
- 3.延長保育の利用料金が低いのではないか？

アンケートの結果から、ほとんどの親御さんが延長保育を喜んでくださっていることが分かりました。「普段は利用しなくても、いざというとき、いつでも預かってもらえるという安心感がある。」と回答してくださっている方がいますが、こういう役立ちかたもあるということをあらためて知らされます。

#### カ. 研究結果のまとめ・今後の課題と展望

当園が昭和57年度から延長保育に取り組んで20数年が経過しました。しばらくの間は午後6時を超えて7時までの保育でしたが、平成8年度からは午後8時まで、そして平成14年度からは現在の午後10時までの保育を実施しています。その時々への保護者のニーズに対して、保育態勢を十分整えてから取り組んできました。ただ、一番大事に考えてきたことは、何よりも子どもの気持ちでした。と同時に、スタッフの前向きな気持ちでした。子どもを傷つけるような保育、そして保育者に無理強いする保育は決してしてはならないと思ってきました。保護者のニーズにしっかり心を寄せながら、あくまでも子どもを中心に保育をすすめていくことが大切だと思っています。『保育所保育指針』には、家庭養育の補完を行って子どもの健全な心身の発達を図ることが保育所保育の基本であると示されています。平たく言えば、保育所は若い親御さんの子育て応援団として、与えられた条件のなかで、また絶えず条件を改善する努力をしながら、子どもの健やかな成長発達のため最善を尽くすことが使命であり、また保育所職員としてのやりがいや喜びの源泉でもあると日々感じています。

私たちにベストの選択はありません。「ベターを求めてベストを尽

くす。」をモットーに、子どもの幸せのために保護者とよく連携しながら保育の向上をめざしてきています。一時保育でもまったく同様の姿勢で取り組んできています。我が園なりに大きな成果をあげてきたと自負していますが、課題もいくつかあります。以下、いくつか列記して、このレポートを閉じます。

#### [延長保育]

- (i) 子どもの精神的よりどころとして、特別延長保育の担当保育士は特定の保育士に固定されることが望ましいです。少なくとも一人はそうであるようにしたいと思っています。何が起こっても、的確な判断をし、子どもを命がけで守る精神を持ち、園の方針等を徹底的に理解できた園の看板を背負ってもらえるような人材が求められます。
- (ii) 申し送りが明確かつ簡単にできるような日誌等のフォームの改善が必要です。子どもの発達を考慮したカリキュラムの作成をすすめていきたいと思っています。
- (iii) 現在、保育終了時刻は午後 10 時を限度としていますが保護者のニーズは増えるばかりで、10 時を超えてお迎え時刻が遅くなる人がいます。限度を守ってもらうためには苦言も言わなくてはなりません。24 時間年中無休が保育園の理想なのですが。

#### [一時保育]

- (i) 不定期利用の場合、保護者との信頼関係を築くことが容易ではありません。また、利用日前に保育説明の時間が十分取れないことが多いです。翌日会うことがほとんどないので、保育上の疑問などを持たれた場合に応えることができないこともあります。
- (ii) 不定期利用の場合、利用日の直前での申し込みになるとスタッフの態勢がどうしても整わず受け入れをお断りしなければならないこともあります。ただ、一時保育は、突然必要になる事由が多々あるので（例えば身内の看病やご不幸、保護者の負傷などのとっさの出来事）、できる限りお応えするよう努めています。